

| | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>日本プライマリ・ケア連合学会 四国ブロック支部</p>  | <p>発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田 事務局 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1 綾川町国民健康保険陶病院気付 副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛 Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795 E-mail oharamasaki@gmail.com</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

★1 2021年度研修開始式をおこないました

高知家総合診療専門研修プログラム事務局 福留恵子（高知大学家庭医療学講座）

2021年4月24日（土）、高知家総合診療専門研修プログラムの2021年度研修開始式を開催しました。今年度から新たに専攻医として江端希澄先生を迎えています。

江端先生は、初期臨床研修終了後に眼科の研修を行っていましたが、総合診療に転向することとなりました。自己紹介では、「その人、全体を診たい」という思いを新たに、総合診療専門研修を志したことを発表してくれました。この4月からは初期臨床研修を行った高知県立あき総合病院で総合診療専門研修Ⅱを開始しています。あき総合病院では、これまでに家庭医療専門医を取得した先生方も勤務されておりますし、2018年度から日本専門医機構認定総合診療専門医の研修も行っていますので江端先生も経験のある先輩たちに囲まれて安心して研修を進められるのではと思っています。江端先生が充実した研修を送れるように、高知家プログラム一同、全面的に応援とバックアップをしていきたいと思っています。

研修開始式の基調講演は日本プライマリ・ケア連合学会副理事長の前野哲博先生（筑波大学）にお願いしました。「総合診療医の専門性と将来性」と題して、90分にわたりご講演いただきました。

今回は10名の医学生と4名の初期研修医にも参加してくれていたこともあり、「総合診療とは何か」というお話しからしていただきました。

また、総合診療専門医として、総合診療専門研修を終えた際には行えるようになっているべき具体的なアクションや、「高血圧の診療と生活指導・予防」と「小児への予防接種やそのプラン」、「婦人科的予防医療の提案」と「地域における要介護高齢者のケアワーカーとの連携」といった各領域で獲得すべき能力と、その能力がそれぞれ単体ではなくすべてができるようになっている必要があることなどをご説明いただきました。ただその一方で、総合診療専門医が持つべき能力は「どんな稀な疾患であっても対応でき、その分野の治療を貫遂できる臓器別専門医」と同等である必要もなければ、そうあることは到底不可能であり、この研修ではプライマリ・ケアで求められる領域について穴がないようにしていくことが必要であるとお話しくれました。講演の後のアンケートでは、参加された医学生から「なんとなくイメージしていた総合診療や総合診療医が、とてもわかりやすくなった」



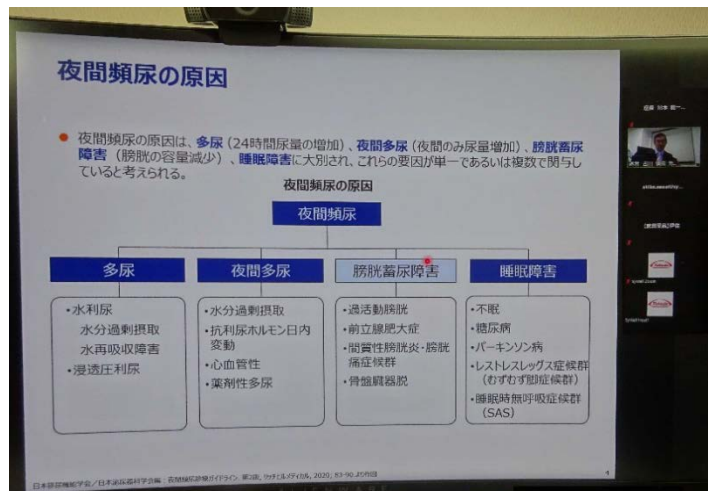
との嬉しいフィードバックもありました。総合診療と総合診療医に対する社会からの期待は非常に大きく、これからますます求められていく分野であることを熱く、力強く伝えていただき、私たち指導医や専攻医も志を新たにすることができました。前野先生、ありがとうございました。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、同じプログラム内であっても対面でディスカッションするなど、「場」を共有することが困難なことは残念です。しかし、社会がこのような状況だからこそ、総合診療や家庭医療の能力を発揮する必要があることを実感しています。今年度も高知家プログラムでは総合診療セミナーを中心に楽しいオンラインイベントを計画したいと思います。今後も多くの方のご参加をお待ちしております。

★2 第20回愛媛プライマリ・ケア研究会

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

2021年3月23日(土)、第20回愛媛プライマリ・ケア研究会を開催しました。例年でしたら本会は2020年6月末の土曜日に開催され、一般演題と教育講演、そして特別講演の3本立てで行われる予定でしたが、コロナ禍にて開催が延期されていました。残念ながら、特別講演のみの開催となり、当初予定していました愛媛大学 総合健康センター 教授の古川慎哉先生にお願いしました。先生は、全国各地で糖尿病あるいは生活習慣病に関してご活躍の先生であり、2020年3月まで地域医療学講座の准教授を担当いただき、大変お世話になった先生です。昨年4月から愛媛大学 総合健康センターの教授に就任なされ、今回はその記念の講演会もかねて行いました。講演では、これまでの先生の研究活動を通して蓄積された疫学的データなどに基づいて、内科医としてプライマリ・ケア外来で注目しなければならない夜間頻尿と睡眠の質やQOLとの関係、糖尿病患者における影響(生命予後、動脈硬化、抑うつ状態、腎症)、睡眠呼吸障害やEDとの関係、心不全との関係、身体活動への影響、切迫性尿意の背景について、さらには治療法: 飲水や塩分制限、食習慣・運動習慣などの生活習慣への指導、薬物の影響など最近の臨床研究やご自身の研究データを用いて幅広い領域にわたりわかりやすくご講演いただきました。



★3 愛媛大学医学部地域医療ワークショップ

今年度の地域医療ワークショップも、開催早々リモートでの集まりとなりました。学生が集まりやすい時間の設定も難しく、次第に顔も見えない状況でのワークショップで、今後の継続の難しさを感じます。一方で、今年度の入学生は、やる気満々であり、ほぼ全員の出席でした。今後、プライマリ・ケアの現場で活躍されている先生方からの話を聴きたいとの要望もあり、本学会会員の先生方からのリアルタイムの発信を設けていきたいと思ひます。



★4 オンライン SAKURA-GM カンファレンス

徳島大学病院 総合診療部 大倉佳宏

徳島大学総合診療医学分野教室がその活動をサポートしている『徳島大学医学部地域医療研究会 T-COM』は、様々な課外活動を通して徳島の地域医療を学ぶ学生サークルです。例年、徳島県内の病院見学実習、臨床推論セミナー

(SAKURA-GM カンファレンス)、バーベキューやすだち狩り、阿波踊りへの参加などを行っていましたが、昨年はコロナ禍の影響で、集まる事が出来ず、思うような活動が出来ていませんでした。

そのような中で新年度が始まり、「今年こそは活動をしたい」という学生からの相談をうけて、完全オンラインでの勉強会 (SAKURA-GM カンファレンス) を企画しました。



2021年5月15日土曜日に総勢26名の学生と教員がweb会議ソフトZoomを用いて参加しました。1年生はもちろん、2年生も初めての参加であったため、まずは部長がクイズ形式でこれまでのT-COMの活動を紹介し、大いに盛り上がりました。

その後、私自身が経験した症例を題材に、臨床推論セミナーを行いました。二人暮らしの高齢者夫婦で、夫が歩けなくなり訪問診療を行ったという設定で、ブレイクアウトルームに分かれてどのような疾患や病態が考えられるのか活発な小グループディスカッションが行われました。診断は「慢性硬膜下血腫」だったのですが、まだ医学的知識のない低学年に、先輩が説明をするなどの場面もみられました。

さらにカンファレンスは疾患の診断だけに留まらず、治療後に自宅で生活するために、この夫婦にどのようなサポートが必要かを議論し、家族にどのように協力を得るべきか、利用できる介護保険サービスはどのようなものがあるのかについて学びを深めました。

2時間を超えるカンファレンスは大いに盛り上がり、今後も1ヶ月に1回の定例開催を行っていく予定にしています。

コロナ禍の中で大学の講義をほとんどがオンラインになり、病院実習やサークルなどの課外活動ができなくなるなど、学生の生活に本当に大きな影響をもたらしました。実際に地域に見学に行くこともできなくなり、学生はますます実際の医療現場に触れる機会が減っています。

しかし、このような状況でもweb会議ソフトを用いて遠隔地に居ながら繋がり、セミナーやワークショップなど同じ時間を共有する取り組みも進んでいます。このようなツールをどんどん利用しながら、地域医療やプライマリケアなどを学生や若い医師に知ってもらうような取り組みを、今後も続けていきたいと考えています。



★5 2021年度四国ブロック家庭医療専門研修・総合診療プログラム 専攻医オリエンテーション&ポートフォリオ発表会 2021 を開催

愛媛生協病院 家庭医療科 原 穂高

2021年4月17日(土) オンラインで開催しました。

事前の応募が50名あり実際の参加者は開催中40数名でした。

今年度、四国ブロックに計2名の新専攻医を迎えました。高知の江端希澄先生と徳島の高橋良輔先生です。その2名に自己紹介をしていただきオリエンテーションが始まりました。

専門医機構の総合診療専門研修プログラムと、日本プライマリ・ケア連合学会の新・家庭医療専門研修プログラムの概説を行い、差異と関連について伝えました。

総合診療専門研修プログラムのオンライン研修手帳であるJ-GOALの取り扱い説明を行いました。つづけて内科研修で用いるJ-OSLERの取説を行いました。

ポートフォリオの講義では、同じポートフォリオという言葉でも総合診療専門研修で求められるものと新・家庭医療専門研修のそれとでは「夏休みの自由研究」と「大学の卒論」ほどの違いがあるという至言が印象的でした。

先輩からのTIPSとして研修に役立つ書籍・ツールとして、実臨床における実践的な教科書・Webサイトから専門研修で総合診療/家庭医療学を深める成書・雑誌まで幅広く紹介しました。専攻医はもちろん、指導医にとっても有益な内容でした。

専攻医部会の紹介を行い、新専攻医や既存専攻医に向けて専攻医部会への参加を呼びかけました。専攻医部会では様々な取り組みを行っていますので、ぜひご参加ください。

ポートフォリオ発表会では2題のエントリーがあり、高松平和病院の植本真由先生、HITO病院の近藤啓介先生よりそれぞれ発表、質疑応答で盛り上がりました。

企画終了後に感想アンケートも参照してふりかえりを行いました。良かった点として、オンライン企画で発言しにくい面があるなかでチャット機能をうまく活用して議論を活性化できたこと、プレゼン資料をダウンロードできるようにして配布できたこと、テストをすることでオンライン企画でも単位取得可能となったこと等が挙げられました。反省を踏まえた教訓として、広報が不十分であったこと、双方向性をより高めたいこと、ポートフォリオの発表形式、開催時間が2時間半と限定的なためもっと長くできるか?ということなどが挙げられ今後の課題とします。

ご協力いただいた皆様方に感謝いたします。来年度もよろしくお願いいたします。

